

NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！



“ つるし雛の前でちょっとひと休み ”

つるし雛まつり期間中、雪はありませんでしたが寒い日が続き、またコロナ騒ぎの中にもかかわらず、若い親子連れや友達同士でおいでいただき賑わいも見せました。町の皆さんは毎年頭を痛めながら手作りし、工夫を凝らした飾り付けをし、出店では温かい飲み物や汁物、回転焼き等でおもてなしをしました。

一人、一人の力を合わせて、飯野の地域力をもって今後も継続していけたらと思いました。

広報委員 新村 章



前略 コロナウイルス様

「前略 コロナウイルス様 近頃新型と呼ばれ ご活躍の御噂拝聴しております どうぞわが町にはお越し下さぬようお願い申し上げます」

さて新型コロナウイルスにメッセージを送りたくとも、住所も存じ上げません。お願いの仕様もございません。

一見この無意味なことにお笑いかと存じます。しかしながら私たちは今、新型コロナウイルスという目に見えぬ不安と対面しているのです。幸いなことに福島県(執筆時)に発症者は出ておりません。日々のニュースで国内発症者が一人二人増える最中、次は自分たちの町かと不安になっておるのであります。

実はこの不安な気持ちになる経験、九年前に経験した事でもあります。そう、東日本大震災における福島第一原発事故に伴う放射能不安であります。今ではもう昔の事と思いかもしれませんが、目に見えぬ放射能の脅威に震える思いをしたのであります。

当時、昼のワイドショー番組などで、放射能についての情報がたくさん流れていました。司会者は、放射能とはなんですかと問い、専門家が難しい言葉で説明していました。それを聞いた司会者がさらに畳みかけるように、不安をあおるかのようなコメントを重ねていたことを思い出します。どのチャンネルを回しても、似たような内容で、かえって不

安が増し、どれを信じてよいのかもわかりませんでした。

その時、池上彰さんの解説を聞きました。池上さんは自分の言葉で、「放射能とは、放射線とは、放射性物質とは」と、わかりやすく解説していました。それを聞いて放射能の脅威とは何かを理解する手がかりとなり、自分自身もまた放射能について理解することができ、不安を解消することができました。



今回も、新型コロナウイルスについてたくさんの情報がテレビやネットで流れております。中にはとんでもないデマも流れています。慌ててトイレットペーパーを買い占める行動に走らせてしまいます。

一番大切なのは、たくさんの情報から、確かなことをくみ取り、自分の言葉で理解する事なのであります。今回も、ウイルスという目に見えぬ不安と対面しながら、九年前の事を思い出して、まずは相手を理解しようと努めていきたいものです。

(平成31年4月～令和2年2月)活動報告

人手不足の中、介護職員を確保し処遇を改善

職員を確保し、働き続けられるように処遇を改善することは、当法人の課題でもありました。昨年度より国の処遇改善の基準に基づいて整備し加算を受けられるようにし、処遇改善にあてました。給与や賞与の改善にも努めました。

また、6年に1度の福島市による介護保険法に基づく実地指導も無事に終わりました。

副理事長に高槻さん

副理事長席が空白でありましたが、高槻秀夫さんが4月1日付けで就任されましたのでご報告します。



新春交歓会開かれる（1月30日）

今年の新春交歓会は、会員19名、賛助会員5名、ボランティアさん6名の30名の参加で、えびすやさん2階に於いて開かれました。

会長の挨拶に続き、会員である、いいの診療所の松本先生が新型コロナウイルス感染症の特徴について現在わかっていることをわかりやすく話をして下さいました。若い人であれば軽症でなおってしまうこと、重症化率は以前のサーズと比べれば高くないこと、持病を持っている人はしっかり治

会員、ボランティアを増やしていくために

当法人は、震災の翌々年平成25年に開設されました。開設した時の趣旨や思いを引き継ぎながら、生活支援（有償ボランティア）、介護事業を行ってきました。今年は会員、賛助会員、ボランティアの皆さま、職員が一同に会して楽しめるようなイベントも企画したいなと思っています。会員以外の地域の方も参加できるようにし、当法人の活動を知ってもらい会員増にもつなげたいと思います。企画内容でご意見があればぜひ寄せていただきたいと思います。

療して体力をつけることが大切とのことでした。

えびすやさんのご厚意により、とてもおいしい料理を食べながら、参加者どうし楽しく交流しました。飯野町ーこの地域のこれからについて語り合いました。





みんなの広場



たくさんの人に支えられて

私は、舅やお姑さん、夫の介護経験があります。すぐ隣に長男家族が家を建ててくれて、夫が亡くなった後は独りになった私を気にかけてくれ、元気な頃でも何かあるとすぐ駆けつけてくれていました。

脳梗塞になった時はがっかりしました。情けなかったです。病院でリハビリをして退院しましたが、言葉が上手く出てくれなくなり、身体も思うように動いてくれなくて...

ママ(お嫁さん)に一生懸命やっってもらって、助かっています。孫もご飯を運んでくれたり片付けてくれたり、優しい子です。みんな働いているのに、よくやってくれて感謝しています。

息子は遠くに単身赴任をしていますが、最近家にいる期間ができたのか息子にも手伝ってもらって

います。その分、ママに会うことが少なくなって、顔を見ないと気持ち持がスッキリしなくて、元気だと聞いて安心したりしています。女性だからわかってもらえることもあり、頼りにさせてもらっています。

リハビリ南東北さんにもお世話になっています。みんな麻痺や拘縮とかあって、自分と同じだと思います。自分だけじゃないんだと思うと力になるし、独りで家に居るよりずっと楽しいです。お泊りにも行きます。いい所だと思うけど、一人部屋なので飽きてしまう時もありますね。

毎日いろんな人に助けをもらいながら暮らしています。今も夫と暮らして来たこの家で、家族に支えてもらいながら暮らせていることが幸せです。

<利用者 関 ツネ>



会員・賛助会員 ボランティア募集



NPO やすらぎの郷いの

福島市飯野町字前川 1 6

TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>

一言

新型コロナウイルスの報道が連日続きます。これ以上感染が拡がらないように、早く収束しますようにと願うばかりです。“濃厚接触しない”ことの解除、ちよくちよくマスク売り場をのぞくことをしなくてもいい日が早く来ますように (K)